

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載  
 【部門区分】第 5 部門第 2 区分  
 【発行日】平成 17 年 7 月 14 日 (2005.7.14)

【公開番号】特開 2003-232325 (P2003-232325A)  
 【公開日】平成 15 年 8 月 22 日 (2003.8.22)  
 【出願番号】特願 2002-29813 (P2002-29813)  
 【国際特許分類第 7 版】

F 1 6 B 37/10

E 2 1 D 11/04

F 1 6 B 37/00

【F I】

F 1 6 B 37/10

E 2 1 D 11/04 A

F 1 6 B 37/00 B

【手続補正書】

【提出日】平成 16 年 11 月 19 日 (2004.11.19)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 7

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 7】

また、呼び径 M 3 0 の場合において、J I S に規定するメートル並目ねじの場合にはねじピッチが 3 . 5 m m であるため、隙間 D 1 が約 1 . 7 5 m m ~ 7 m m となり、メートル細目ねじの場合にはねじピッチが 3 m m 又は 2 m m 又は 1 . 5 m m 又は 1 m m であるため隙間 D 1 もそれぞれ半分から 2 倍の寸法となる。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 9

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 9】

2 は雌型連結部材 1 を構成するケーシングで、筒状、例えば円筒状に形成され、その内部に収納室 3 が形成されている。該収納室 3 の先部には、その内周面を先端側から後方にかけて内径が徐々に拡大するテーパ面にしてなるテーパ穴 4 に形成され、収納室 3 の中間部はバネ収納部 5 に形成され、収納室 3 の後部内周には雌ねじ 6 が刻設されている。前記のテーパ穴 4 より先部には挿入口 7 が開口形成されている。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 2 1】

また、前記テーパ穴 4 内には、図 3 に示すように、周方向に複数に分割してなる楔状の雌型係止部材 9 が、前記摺動案内突条 8 相互間においてケーシング 2 の軸方向に摺動可能に配設されている。更に、該楔状の雌型係止部材 9 の外面は前記テーパ穴 4 のテーパ面に沿った、すなわち、先端側から後方にかけて外径が徐々に拡大するテーパ面 1 0 が形成されている。更に、各雌型係止部材 9 の内周面には雌ねじ 1 1 が、ケーシング 2 の軸心を中

心とする円弧でかつ軸心に沿った方向に刻設されている。なお、本実施例において、雌型係止部材 9 を以下楔ナット 9 という。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0024

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0024】

前記ケーシング 2 の後部の雌ねじ 6 には、中心部にねじ穴 13 を設けた蓋板 14 が螺着されている。前記バネ収納部 5 内には付勢手段であるバネ 15 が、前記バネ受け 12 と蓋板 14 間に圧縮した状態で介在され、該バネ 15 の付勢力により各楔ナット 9 を常時先方へ付勢している。

【手続補正 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0033

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0033】

例として、呼び径が M24 (mm) の場合には、前記 JIS B 0207 のメートル細目ねじではねじピッチ P を 2 mm 又は 1.5 mm 又は 1 mm に形成するが、本発明では、ねじピッチ P を 0.3 mm ~ 0.8 mm、望ましくは 0.5 mm に設定する。